



No.28

UT University Forests News

科学の森ニュース

May 12, 2005

発行：東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林

千葉演習林で春の一般公開を実施

千葉演習林

4月16日（土）と17日（日）に、春の一般公開が実施されました。16日は天気予報で雷注意報が発令されていたこともあって、96名と例年より少なめの入林者数でしたが、天気に恵まれた17日は284名となり、2日間で381名の方が新緑の猪ノ川を訪れました。秋の公開に比べ軽快に歩かれる方が多く見られ、ジョギングをされている方もいらっしゃいました。また、ボランティアとしてご協力頂いている森林インストラクターによるボランティアガイドでは、「いろいろ教えて頂き、楽しく歩くことが出来ました。また来ます！」と、好評のうちに終了することができました。



森林インストラクターによるボランティアの自然解説

「科学の森ニュース」のカラー版（pdf形式）を東京大学科学の森教育研究センター（演習林）のホームページからダウンロードすることができます。（<http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/>）

お知らせ

森林ボランティア募集!!

千葉演習林ボランティア会 Abies

千葉演習林ボランティア会^{アビエス}Abiesは、千葉演習林をフィールドにして森林に関するボランティア活動や研修などを行っております。今年度は一般公開の補助、歩道修理、苗畑除草、枝打ちなど、年間 20 日程度の活動 + 臨時活動を予定しております。詳しくは以下の HP をご欄になるか、事務局までお問い合わせ下さい。

<http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/chiba/volunteer.htm>

事務局 石川 輝雄 043-251-1390

トピックス

野鳥の家を作ろう 巣箱観察会

千葉演習林

4月9日(土)千葉演習林清澄管内にて巣箱観察会が行われました。これは昨年12月11日(土)に参加者が制作して設置した巣箱を対象にしたものです。当日は鴨川市内の小学校児童を中心に19名が参加しました。今回造巣していたのはヤマガラで、抱卵中の巣箱もいくつか確認されました。子供たちは職員の説明を受けた後、鳥たちを刺激しないように静かに興味深く観察していました。



ボクの巣箱には鳥がいるかな？

鳥類研究会中間報告会開催

鳥類研究会

演習林内の任意同好会である鳥類研究会(基盤データ整備委員会生物部門の部会のひとつ)の中間報告会が2月24(木)、25日(金)に千葉演習林で開催されました。本研究会は平成16年度から活動を開始し、北海道、千葉、秩父、愛知演習林、樹芸研究所で各々の担当者が鳥類目録作成のための調査を行っています。24日は各演の調査進行状況の報告や調査及び資料作成方法等の検討を、25日はあいにくの悪天候でしたが、各々の調査技術の向上を目指し、早朝より現地調査を実施しました。今後は2006年度までの目録作成と公開講座等の社会貢献を目的に活動を継続していきます。



活発なディスカッションの様子

愛知演習林で 日米 LTER ワークショップが開催される

愛知演習林

2005年3月14日(月)~18日(金)に、日本とアメリカのフィールド科学に携わる研究者と学生による「日米 LTER (長期生態研究) ワークショップ: 森林集水域の生物科学と水文」が開催されました(詳しくは<http://www.jern.info/>)。日米の参加者は北海道大学の雨龍研究林を見学した後に愛知演習林を訪れ、芝野林長の案内で70年以上も

の長期にわたって量水観測が行われている
白坂試験流域を見学しました。



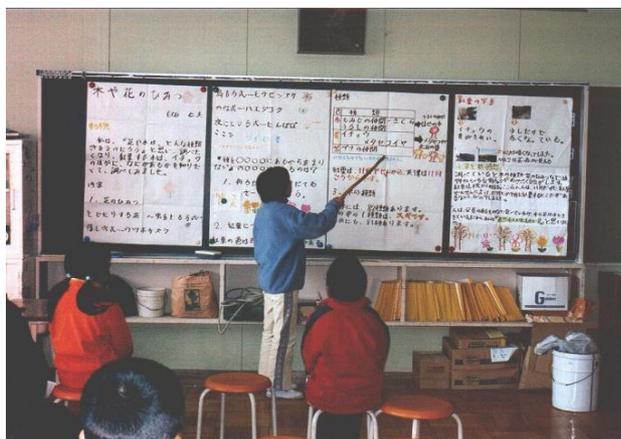
集合写真

天津小学校 「森林のひみつを探ろう」発表会

千葉演習林

千葉演習林で「緑の教室」を行い、森林に関する様々な疑問を調べに来た天津小学校5年生による総合学習「森林のひみつを探ろう」の発表会が、3月3日(木)に天津小学校で行われました。千葉演習林からは山中助手、相川技術職員が講師派遣の要請を受け発表を聞きに行きました。次年度「緑の教室」に参加予定の4年生も聴講しました。

森林に関する植物・動物・土・水・炭など各自興味のあるテーマで調べたことを、模造紙、紙芝居、クイズ、ペープサートなどを用いて工夫し、1人ずつ36題目を発表がありました。「それぞれ世界に一つしかない貴重な発表(山中助手講評より)」を聞くことができました。



森のひみつを発表します

感動一杯のサポーター活動

秩父演習林

サポーター一期生 木戸和美江

山のこと木のこと何も知らずにとび込んだサポーター活動。職員の皆さんの教えて下さること、見聞きすること、すべて新鮮で感動の連続です。また偶然に出会う感動も沢山あります。

栃本での「歩道巡視」活動のとき、「ツルニンジンの花」を見つけました。歩いていなければ見つからない地味な花なので、よくぞ会えたと本当にびっくりしました。

影森苗畑での「ブナ根巻き」活動のとき、掘り取ったブナの横に転がったアーモンドチョコ程のような土の塊の中にネキリムシが見えました。良く見ると内側をスペースにした丸い部屋の中にコロンと入っていたのです。可愛くてとても感動的でした。

去年は目標の「オオバアサガラの花」を見ることが出来ました。今年は是非「カツラの香り」に出会ってみたいと思っています。

活動に参加するたびにいろいろな感動に出会えるのが楽しみで、つい足が秩父に向いてしまう私です。

※秩父演習林サポーターとは秩父演習林の活動をサポートするボランティア組織です。木戸さんは埼玉県東部から電車で片道2時間かけ、月3回程のペースでサポーター活動に参加してくれています。



「歩道巡視」活動のひとコマ。
中央に座っているのが木戸和美江(とみえ)さんです。

ハンカチノキ

ダヴィディア科 ダヴィディア属
学名: *Davidia involucrata* Baillon

田無試験地

中国南西部原産で、標高 2,000m の奥地林中に自生する落葉高木種です。19 世紀後半に初めて発見されました。分類上も 1 科 1 属 1 種の珍木です。

4 月末の花期には、白いハンカチをくくりつけたような 2 枚の総苞片*がひときわ目を惹き、清楚な美しさを感じさせます。

従来、種子の発芽率が低く挿木発根性にも劣るため、増殖は困難とされてきました。田無試験地では増殖法の検討・改良を重ね、現在では挿木増殖に成功しています。近年、公園樹や街路樹として人気を集めています。



*総苞片：花序（複数の花がまとまってついた枝に相当する部分）につく葉を苞葉といい、苞葉は変形して光合成を行いません。苞葉のうち花序全体を取り囲むものを総苞片といい、その全体を集合的に総苞といいます。

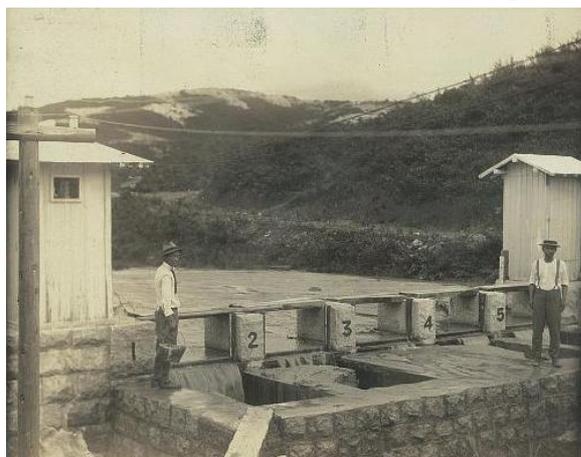
名所・名物案内

穴の宮量水堰堤

愛知演習林

愛知演習林は、1922 年に森林理水及び砂防工学の演習地として、はげ山の多く見られた愛知県瀬戸市に創設されました。翌年には穴の宮試験地で最初の量水観測が開始され、その後、東山、白坂、数成試験地でも観測が開始されました。1945 年にやむなく中止した数成を除いた 3 カ所では現在も観測が継続して行われており、80 年以上に渡る貴重な森林水文のデータの蓄積は世界に類を見ないものとなっています。

写真は 1925 年の穴の宮量水堰堤の様子で、集水域から流入した土砂で満砂状態になっています。当時は写真の上方にも見られるように、尾根筋に全く樹木が無い状態でした。その後、積極的に「ススキ筋工」などの山腹工事が進められ、現在では裸地がほとんどないまでに回復しています。



東山、白坂量水堰堤では、今でも年に 2 回ほど、職員総出で満砂状態になった堰堤の「砂出し」を行っていますが、穴の宮に限っては写真のような土砂の流入は無くなりました。

流域地形の違いがあるとは言っても、「緑」の回復が土砂の流出量に与える影響は大きく、森林の回復と水の関係を併せて現在継続している 3 カ所の量水試験地での観測を更に継続することによって、これまで以上の知見をもたらしてくれるものと期待されます。

科学の森ニュース (UT University Forests News) 第 28 号 (No.28)

発行日 平成 17 年 5 月 12 日 〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1
 発行人 永田 信 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林研究部
 編集人 丹下 健 TEL 03-5841-5497 FAX 03-5841-5494
 E-mail mori@uf.a.u-tokyo.ac.jp